

鮮やかな楼門竣工式

平成二九年から始まった静岡浅間神社の楼門保存修理工事が一月三日をもって終了し、翌日の一月二日には「竣工式」と「くぐり初め式」が執り行なわれました。大拝殿で行われた神事では工事の無事終了と疫病退散を祈願し、その後に祭員を先頭に宮司、静岡県、静岡市の関係者、総代の皆様工事関係者も続き楼門をくぐり式典は終了いたしました。



太陽の陽を浴びて創建当時の極彩色の輝きが見事に甦りました。



新年には大勢の参拝者を迎える。

徳川幕府が一八〇四年から六〇年余の歳月と当時の金額で一〇万両の巨費を投じて再建されたのが、現在の社殿群になります。極彩色の社殿は「東海の日光」と称され、およそ四、五十年に一度の保存修理工事が行われてきました。このようにして日本の伝統技術が受け継がれてきたのです。弊社も日本の伝統技術の継承の一端を担うことに誇りを持ち、そして後世に伝える役目を果たしていかねければならないと強く思いました。

これからの時代へ

向けた位牌堂

五月より工事を進めてまいりました永安寺様（磐田市）の位牌堂が完成いたしました。永安寺様からの、一人一人の区画を仕切ってほしいという要望をかなえた内部の仕様になっており、室内墓地としての需要にも対応できます。



←水屋を備えているので花を替えるにも便利。明るい室内で雨の日でも気にせずにお参りを。

↓あえて位牌堂に見えないようなスッキリとした外観に。

